

平成25年度第2回 田沢湖地域審議会会議録

日 時 平成25年11月18日（金）午後6時00分～午後20時40分

場 所 仙北市役所田沢湖庁舎 第1会議室

出席委員 中村正孝会長、三浦陽一委員、吉田裕幸委員、千葉なみ子委員
千葉友永委員、浦山力委員、細川俊雄委員、三浦久委員、
小松尚委員、古郡洋平委員

欠席委員 藤川栄委員、佐藤公平委員、千葉博夫委員、佐藤厚子委員、

出席仙北市関係者

仙北市長 門脇光浩
総務部長 高橋俊一
総合産業研究所長 高橋新子
観光課長 草薨博美
商工課長 黒澤久美子
田沢湖地域センター長 大石 誠亮
企画政策課長 平岡有介
企画政策課参事 高橋信次
企画政策課課長補佐 草薨雅人
企画政策課主任 鈴木匡尚

- 会議次第
- 1 開会
 - 2 会長あいさつ
 - 3 市長あいさつ
 - 4 案件
 - 1) 所得10%向上の具体策について
 - 2) 独自審議事項（テーマ）の決定
 - 5 閉会

企画政策課長

お足元の悪い中、お集まりいただきありがとうございます。定刻になりました

たので、早速ですが、田沢湖地域審議会を開催して参りたいと存じます。

議事の前まで、進行役を務めさせていただきます企画振興課長の平岡でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それではじめに、中村会長様よりご挨拶をお願いします。

中村会長

夜間開催ということもあり、皆様におかれましてはお仕事を終えられてからのご出席で大変お疲れのところと存じます。

この地域審議会では、市長から諮問されました所得10%向上の具体策について話し合うと共に、独自テーマについても、本日決めなければならないことから、皆様のご協力をもって進めてまいりたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

平岡企画政策課長

ありがとうございました。続きまして、門脇市長が皆様にご挨拶申し上げます。

門脇市長

大変寒くなりました。前回の選挙で種苗交換会が始まる直前の10月29日まで、一期目の任期でした。30日から二期目の職務についているという状況です。今回、議事の中にもありますが所得10%向上具体策と、また、独自の審議事項の決定ということで皆様方をお願いしているわけですが、何点か悩んでいることがありますので、建設的なご提案をいただきたいと思えます。

仙北市が25市町村ある中で、所得について最下位に近いレベルであり、一期目の公約として10%向上をあげ、22年、23年の2カ年について検証しています。24年、25年に関してはまだまだ統計数値がそろっていない状況ですので、この後の作業になることをご理解いただきたいと思えます。

いずれにしても10%向上の目標達成が難しいという現状にはわかりありません。これを突破するために、4つの政策をご提示いたします。

一つは世界基準で産業育成を行う。観光資源の最大利活用、農林業の基盤の確立、ウルグアイラウンド、GATTやTPP等の国際的な流れの中での農業政策の構築を図らなければなりません。

二つ目は行政の組織再編、行財政改革です。今後劇的に職員数が減少する中での対応策が必要になります。

三つめは民間への事業の移転です。様々な業態の中で市民の方をお願いする場面が増えてくることが予想されます。

四つめは少子対策に取り組むということです。2040年には仙北市の人口が43%減少するという推計が報告されています。これに対する有効策、対抗策をあげていきたいと思えます。

ただ、精神的な面で考えた時、所得を上げないと果たして市民の幸せや安心感は醸成できないものかという議論をしてこなかったというのがあります。もちろんお金が無いよりあった方が良いのですが、満足感、達成感があってさらに所得が向上する、二重三重の視点が今後必要になってくるのではないかと悩んでいるのも事実であります。

先日まで種苗交換会が開催され、862,000人という多くの方々に来ていただきました。本当に皆様のおかげであり、心から感謝申し上げます。

先々週から西木で審議会が始まり、独自の審議案としてかたまえ山森林公園の再生、利活用についてご提案いただきました。先週の角館では少子化についてのご提案をいただきました。どうか田沢湖審議会においても独自のテーマをもって取り組んでいただきたいと思います。後ほど係から話をさせていただきますが、有効なもの、緊急性を要するもの等について、即時対応できる体制をつくっていききたいと思えます。大きく予算が伴うものについては平成27年度の対応を準備するなど、リアルタイムで皆様の要望に応えるという姿勢を持ち続けたいと思っています。

どうか、短い時間ではありますが、様々な視点からのご提案をよろしくお願い申し上げます。

平岡課長

ありがとうございます。ここで本日出席しております市の職員をご紹介します。(割愛)

それではさっそく議事に移りたいと思えます。規定により、以降の進行については中村会長にお願いしたいと思えます。よろしくお願いいたします。

中村会長

それではご案内してありますとおり、所得10%向上の具体策について意見をいただきたいと思えます。先に事前資料の確認をして、本日の課題についていろいろと提言をいただければと思えます。事務局から提案があるということで説明をお願いいたします。

鈴木主任

よろしくお願いいたします。(今後の日程、資料の説明)

中村会長

いま担当から説明がありました但し質問はありますか。

(なし)

それでは所得10%アップの具体策についてご意見を出していただきたいと思ひます。それでは、新しい資料の主要事業の概要について項目だけでも目を通してください。

三浦陽一委員

質問ですが、アクションプランの6の項目の中で飲食業・宿泊業の活動支援・PRの実施とありますが、観光課の方に確認です。農家民宿の案内は行政で行っていますか？

草薨課長

はい。行っています。それぞれの観光協会がありますが、田沢湖については田沢湖観光協会が行っています。西木、角館については角館駅前のTICで行っています。観光案内所については把握していません。

三浦陽一委員

西木観光協会は田沢湖・角館観光連盟には入っていませんよね。

草薨課長

入っています。

三浦陽一委員

農家民宿について、行政や観光協会等との連携が必要であるという提言をしたかったわけですが。

門脇市長

全課にわたる質問でもありますので私から少しお話をさせていただきたいと思ひます。

各地域の観光協会について、今までは3つのそれぞれが各地域で活動するというのが今までの流れでしたが、これからは連携が必要だという考えをもっていました。それで着任後、田沢湖・角館観光連盟というひとつの傘をつくり、そこにすべての観光協会が参画している状況です。

いま三浦委員が懸念されていた西木観光協会についてですが、それぞれの観光協会でもっている観光政策、対策が違ふという意見が西木観光協会の方々の

中にありました。一時期、離脱するという議論が出たこともありましたが、やはり一緒に手を組んでいこうということで、現在はこの組織の中で活動されています。

グリーンツーリズムについては、観光政策の大きな柱の一つと認識しております。農家民宿や教育旅行、修学旅行誘致の窓口として農山村体験デザイン室というセクションを立ち上げていますが、これは総合産業研究所の内部機関でもあります。

高橋所長

グリーンツーリズムにおける着地型観光として、仙北市の場合は農山村資源を活かして農家の収入向上を図るという観点から、いまは農林部に部署があります。観光協会等の連携に関して、教育旅行の受け入れについては田沢湖観光協会と、他にも TIC とはメニューの造成をしております。

三浦陽一委員

解りにくいというのはあります。農家民宿も熟成の財産ということで、行政等と連携がうまく行ってほしいという提案でした。

中村会長

それでは、所得10%向上ということでご意見をいただければと思います。

細川委員

私からは要望をひとつ。種苗交換会の総括をしていただきたいと。横手や大曲などにはないインパクトを与えたと個人的には思っています。最初は心配でしたがやってみるとよかったわけです。

もう一点、あまり細分化しすぎると大変ではないかと。市の役割は地域を守って元気を出す、この2点なんです。行政が困りごと相談所のような感じになってしまい、人員が足りないお金がないと弁解すればいい問題でもありません。市長は最高責任者でもあるわけですから、今の状態の確認、現実と緊張感をもっていかなければいけないと思います。

農業では一生懸命やる人たちにしわ寄せがいつています。具体的なことは言いませんが。秋田県の農業をどうするか、市議会議員や県議会議員、国会議員含めしっかり話し合っしてほしいと思います。水と土を守れば他の産業も自然と上がってくるわけですよ。先月22日、市長に面会した後、市内を見てまわりましたが田んぼの荒れ具合がひどいです。減反減反で来て放置していいのかと。維持管理は国でやってほしいという声も上がっています。そこの地域の高齢者

が年金をつぎ込み田んぼを守ってきました。基本は水と土を大事にすることで、計画的に市政にあたっていただきたいと思います。

中村会長

今までの経験からお話をしていただきました。他にも所得向上の具体策に繋がるような、建設的なたくさんの方の意見を出していただきたいと思います。

古郡委員

農地の活用について、売り先が見つからないと根本的な解決にならないと思います。例えば道の駅といった物を売る場所、それも岩手方面、4号線から客を呼べるような集客力が高い圧倒的スケールをもったものが必要で、そうすれば売り先も雇用も増えます。内陸線の羽後太田駅の辺りに作れば、角館からの内陸線利用も見込めると思います。

観光については、抱返り溪谷を訪れる外国人観光客に渡すパンフレットが日本語版しかないのと、よく他の観光地についても聞かれることから、仙北市だけでなく広域的な取り組みがあれば便利だなと思いました。また、駐車場について苦情があるなど、客の視点に立った対応が必要だと思います。

中村会長

ありがとうございます。道の駅の話ができましたが、他の地域との思いも補完できるのかなと思います。

吉田委員

建設的な意見では無くて申し訳ないですが、アクションプランの13、3協会の統一とありますが、田沢湖観光協会としては統一に反対です。というのも、各協会での事業内容がまったく違うということが挙げられ、それだけでも難しいのではないかと感じます。連盟が3つの協会をまとめていくのは大変良いことだと思いますが、100人キャンペーンのような事業は連盟でやって、個々の観光協会は独自の動きをしてもいいのではないかと思います。

それと、14の太陽光パネルについて、設置場所が高原の財産区の土地に計画されているようですが、高原地区の観光道路ですので、やめていただきたいと思いますというのが私の意見です。

また、9の観光産業拠点特別区の創設とありますが、具体的にどういったものでしょうか。

門脇市長

観光産業拠点特別区は仙北市内で3地区設定しています。理由付けとして、内閣府の特区制度が運用以来6～7年になりますが、特区の中における規制の緩和・解除を国で行っている状況を参考にさせていただきました。例えば、田沢湖高原地区であれば特有の観光資源を最大活用するため、国や県の網掛けの状況を、特区の中だけは適用外に出来るものに高めたいという考え方です。実際には網掛けの部分が強く、網掛けがはずれたという事例はまだありませんが、発想としてはそういう考え方です。

浦山委員

5の6次産業について、販売部門をお手伝いさせていただくということで、販売設備に助成金はないものか相談させていただきましたが、今年はありませんでした。地元商品を企業として買い取って販売するとなると、原価率や足の速い物の対応など、既製品に比べてリスクが高く、それに対応するための、例えば冷蔵ショーケースといったものをリースで借りても利益が出しにくいので、そういう設備を行政で準備出来る構造があればいいと思います。

道の駅の話では、生保内であれば「あねっこ」との戦いになると思います。また、観光施設の売店が影響を受けているのも道の駅です。もし建てるとなれば既存施設との調整が必要になると思います。

農産品の加工等も考えていて、大手とのタイアップを通じ仙北市ブランドの売込みを考えています。物を作る人への補助はありますが、売る人への補助も考えていただきたいと思います。

古郡委員

田沢湖の毒水の解消についても、国に強く働きかけていただきたいと思います。

千葉委員

学校給食について、どれくらい地場産のものが使われているでしょうか。

高橋所長

平成21年につくられた食育推進計画に目標値が決められています。計画では、仙北市産のもので25年度までに25%以上、県内産のもので35%以上となっています。24年度の実績では、仙北市産40%、県内産49.5%となっています。これは、県が指標とする野菜15品目が決められていて、その重量の割合で算出されています。仙北市においては、例えばサトイモやカボチャは15品目に含まれていないので、実際の率はもっとあがっていると思いま

す。

中村会長

もうひとつの審議事項、独自案について決めていかなければなりませんので時間をとりたいと思います。

平岡課長

それでは、そのことについて説明させていただきたいと思います。

鈴木主任

過去の審議会におきまして、それぞれに各テーマを設けております。平成19年には重点プロジェクトの推進並びに廃校舎の利活用、平成20年と21年の田沢湖審議会については農業の観光について、角館については農産物と観光の連携、集落の健全化の2本立て、西木については農林業と観光について、グリーンツーリズムの推進や事業連携による地域活性化の2本立てでした。平成22年、23年には合同のテーマを設けて、地域防災のあり方についてご提案をいただいています。

中村会長

いま過去のテーマについて説明があったわけですが・・・

細川委員

これらを地域審議会ですべて決めるわけにはいかないと思うんですよ。議会等含めていろいろな会がある中で現状認識、意見交換する場を持って課題を共通認識する必要があると思います。さきほど言った農業問題についても大変なところにきており、担い手や認定農業者だけでは限界にきているので、県議会や市長会なり秋田県の農業を考え、仙北市の特色をいかにして出していくか、我々と意見交換しながら頑張っていたいただければ必ずいい方向に行くと思います。種苗交換会後の跡地についても考えて欲しいと思います。

中村会長

農業に関わる問題を中心という話でした。テーマについては今日絞り込むということでもよろしいでしょうか。

鈴木主任

はい。本日決めていただければいいとは思っていました。西木や角館では所

得向上10%と並行して進めていくということでテーマを決めていただきました。ここでいま決めずに、次回テーマを決めるということも選択肢ですが、その分議論する時間、回数が少なくなってしまうということもあります。

中村会長

他に、独自テーマについて何かご意見あるでしょうか。

千葉智永委員

自分も今年から農業をやっているので、農業系だと助かるという気持ちもありますけど、人口減少に関することも大事だと思います。

三浦久委員

田沢湖の環境は素晴らしいものがあるが、残念ながら魚が住めないというものがあります。湖だけでなく田沢湖全体の自然環境をテーマにしていただけたらと思います。

いくら便利になっても都会にはかなわないし、なかなか所得もあがってこないという状況では、自然を活かした交流人口を増やすことを目標にして、それに伴い所得が向上すればいいと思います。最近ジェットスキーの騒音が無くなって非常に喜んでいますが、残念ながら湖岸の崩落が進んでおり、護岸工事が終わった来年から満水になれば、護岸工事しなかったところはひどいことになります。残った部分は斜度によっては50度という急斜面で簡単に崩れます。護岸ではなく道路の補修工事だという意見もあります。田沢湖だけでなく、旧田沢湖時代全体の環境問題をテーマにしていただければという思いはあります。

小松委員

具体的なものがあるわけではないですが、所得を上げる具体的な政策があればもっと達成できていることだと思うので、それがなかなか難しいからこういった状況になっていると思います。単純な話、所得を10%上げる分を自分が働いて、他の人も同様に働けば達成できるわけですが、どうやって10%上げるかというのがわからない部分です。現場で思うのが非効率な部分、あるいは業務のダブりのようなものを感じ、もっと連携を深めることによって効率的になるのではないかと。それが所得向上のための余力や余剰の力であるのかもしれない。

先程市長から所得向上10%だけではない幸せを求めていくことについて話がありました。観光関係の仕事で観光客誘致を目的にイベント等をするときに、

地元の方の力が小さいというか方向性が弱まっているような感じがします。それでも観光客誘致のためだとすると、地元の力、弱い雰囲気をもっとなんとかしたいとは思っています。自然環境がいいのはもちろんのこと、車ですぐ温泉にも行ける恵まれた環境であり、市民が一人一人が仕掛ける気持ち、やる気をバックアップするいい流れが出来れば、所得10%アップにもつながるといふ二本柱を考えていければと思います。

中村会長

いろいろ意見があり絞り切れなかったわけですが、次回の冒頭でテーマを絞って審議会を進めていきたいと思っています。

細川委員

水の話がありましたが、農村空間の上下水道がヨーロッパに比べて何十年も遅れています。具体的には国道県道市道で水の調整機能をつくり、農家負担が少なくなります。すぐには無理かもしれませんが、いろいろな団体と意見交換しながらやることも必要だと思います。

浦山委員

テーマの話でしたが、私は農家と観光について議論したいと思っていますので、よろしくお願いします。

中村会長

私も田沢湖町として、観光をメインにしながら何かをくつつけるというようなことを考えていましたが、いずれ皆さん方からの意見を加味しながらいくつかのテーマを挙げて、次の回にでも決定したいと思います。よろしいでしょうか。

(意見無し)

中村会長

それでは、独自テーマについてはここでは決定しませんでした。これまでの皆様のご意見、ご提言を踏まえて、市と相談しながらいくつかの候補を提示したいと思いますので、ご了承いただきたいと思っています。

門脇市長

今までのご意見の中で、現状について皆様方に情報提供することで次の会の充実度を高めていただく情報を持っていますので、少しお話させていただいて

もよろしいでしょうか。

種苗交換会の総括については、現状では後片付けがやっと見えてきたという状況ですので、様々な苦情や成果、経済効果等を含めた総括について指示を出したいと思います。

道の駅については、私の第2期目の市政公約の中で、道の駅の検討を開始するという約束をしています。そのステージがどこにあるのかということについては検討させていただいていますので、少々お待ちいただければと思います。

高橋所長

総合産業研究所の取り組みについてですが、いま仙北市の農業は、60%がコメに偏重しています。これから脱却したいということで、収益性の高い、また加工ニーズのある作物を新規栽培していきましようということで生産に取り組んでいます。また、今までは素材をそのまま出荷するだけでしたが、観光地のメリットを活かして、観光事業者との連携を強化し、生産・加工・販売を手掛けることにより付加価値を持たせていくよう取り組んでいます。いまは小麦、蕎麦、冷凍のカット野菜、枝豆の4品目を重点的に取り組んでいます。先程売場がないという話がありましたが、私たちが受ける相談で多いのもやはり販路先がないというものです。しかし実際は、地場産のものを作ろうという計画があった時に、作るだけではなくどこに売るとかということも検討しなければいけません、実際はありません。ですから、このことについてもう少し皆さんと一緒に研究していく必要があると思います。

グリーンツーリズムについては、農村資源を活かした観光と農業の連携で収入を上げるということで取り組んでいます、この3つの柱に取り組んだ成果をまとめてありますので、あとで皆さんに配布したいと思います。

草薨課長

観光課からですが、さきほど紅葉祭でパンフレットを配布していただいたということで感謝申し上げます。外国語のパンフレットについては、英語・韓国語・中国語と準備していますので、事前にご連絡いただければご準備させていただきますと思います。駐車場の対応が悪いということで、これについては日々の業務の中で常に指導しているところでしたが、指導不足の面があったということで、今後気を付けて指導していきたいと思います。

黒澤課長

商工課からですが、支援対策についてご説明申し上げます。起業等応援事業助成制度というのがありまして、新規開業の場合は、補助対象経費の2分の1

以内で補助対象経費が300万円以下の場合は30万円、300万円を超える場合は60万円を限度とするものもございます。

大石センター長

地域センターのモットーといたしましては、市民の安全、安心な生活を送るために、市長の公約にもありますとおり、市民の要望に即対応できる体制を整えるというものがあります。特に雪に関する要望や蜂の被害等、困った時に対応できる体制づくりということで日夜取り組んでいます。道路状況やライフライン、ご高齢者の独り暮らしで困難なこと、こういったものを解決できるよう、横の連携や地域の皆さんの協力を得ながら取り組んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

高橋部長

田沢湖未来づくりプロジェクトということで、市と県が事業主体となり田沢湖の再生やクニマスについてのプロジェクトが動き始めています。内容については、田沢湖再生基本計画策定検討会を立ち上げ、個人や団体、またここにいらっしゃる委員の方にもお手伝いいただき、田沢湖再生や環境保全について広く世界的規模で一緒にみんなで考えていきたいということで動き出しています。田沢湖クニマス未来館という施設をシンボリックに、田沢湖再生に向かったの起爆剤として、みなさんからの意見やアイデアを出していただきながら、この遠大な計画にむかっていこうということですので、この場をお借りしてご紹介させていただきました。

中村会長

予定時間を少しオーバーしましたが、以上で田沢湖地域審議会を終了したいと思います。遅い時間までお疲れ様でした。